

地域への愛着をもち、よりよい地域・社会・未来を創造する子
～地域連携による「おおたの未来づくり」を目指して～（二年度）

校内研究 研究授業

第1学年 生活科学習指導案

令和6年10月9日 5校時

13 : 35 ~ 14 : 20

大田区立久原小学校1年2組 31名

1 単元名

「あきを たのしもう」（全12時間）

2 単元の目標

生活科広場やいこい公園、本門寺公園などの身近な秋の自然と関わる活動を通して、見付けたことを表現したり生かして遊んだりし、秋の自然のよさや特徴に気づき、それらを取り入れ、自分の生活を楽しくしようとするができるようにする。

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	秋の自然の特徴や季節による変化、自分との関わりについて気付いている。	秋の自然の特徴や季節による変化を見付けて表現したり、見付けたことを生かして遊んだりしている。	秋の自然に興味・関心をもってはたらきかけたり、見付けたことを取り入れ、生活を楽しくしようとしていたりしている。
学習活動における評価規準	①秋の自然の特徴に気付いている。 ②自然の特徴を見付けたたり、見付けたことを生かして遊んだりしている。 ③秋の自然を生かしてできることがあること、楽しく遊べることに気付いている。 ④季節の変化による自然や生活の違いに気付いている。	①秋の自然を観察して、見付けたことを自分なりの方法で表している。 ②秋の自然の特徴を生かして、遊んだり、関わったりしている。 ③秋の自然の特徴、季節の変化による違いについて考えている。	①身近な秋の自然、季節の変化による生活の違いに関心をもってはたらきかけようとしている。 ②見付けたことをすすんで表現しようとしていたり、生かして遊ぼうとしていたりしている。 ③見付けたことを自分自身の生活に生かそうとしている。

4 単元について

(1) 【小学校学習指導要領解説 生活編】内容 (5) 季節の変化と生活

(5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること、に気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。

(2) 単元設定の理由

本単元では、校庭や生活科広場、本門寺公園への生活科見学、秋探しなどを通して、児童は繰り返し自然と触れ合う。秋の校庭や生活科広場などで散歩したり遊んだりする活動を通して、自分なりの思いや願いをもち、季節が秋に変化したことに気付くとともに、自分たちの生活を工夫したり、楽しくしたりできるようにすることを目標としている。色付く木の葉やドングリの実などの身近な秋の自然物から色味、形状などの特徴を見付け、それらを表現したり、遊びや遊びに使うものを作ったりする。単元の最後には制作物を利用して「秋祭り」を行う。「秋祭り」では、児童が遊びを計画し、準備を行う。夏に行った夏祭りでも、児童が主体的に計画し、一人一人が屋台の運営をすることができた。秋では、夏に行っていた、遊びに必要な役割を友達と話し合ったり、遊びのルールを決めて楽しく活動したりする方法を学ぶことだけでなく、スクールサポートの方も招待しながら、

地域への愛着を深められるようにしていく。地域への愛着を深めつつ、自然と季節に触れ合えるようにすることが本単元の目標である。

5 児童の実態

(1) 生活科の学習について

児童は、これまでの生活科の学習で、自分たちで「やりタイ」ことを考えて決めて、実現する中で多くの「はっケン」をすることができた。そして、そこから次の「やりタイ」ことを見付けて、新たな活動へとつなげることを積み重ねてきた。

春や夏には、それぞれの自然の物探しの活動に興味・関心をもって取り組み、活動を楽しみ、見付けた草花を教室に飾るなど、自分たちの生活を楽しく豊かなものにし、春から夏への季節の変化に気付くことができた。

(2) 地域よさや素晴らしさへの気付きや地域への愛着について

1年生の入学当初のスタートカリキュラムの一環で、安心して自分の力を発揮することができるようにすることをねらいとして、スクールサポート久原（地域の方）に給食と集団下校のサポートをしてもらった。児童は、初めて会った方には自分から名前を聞いたり、「〇〇さん」と自分から声を掛けたりしていた。

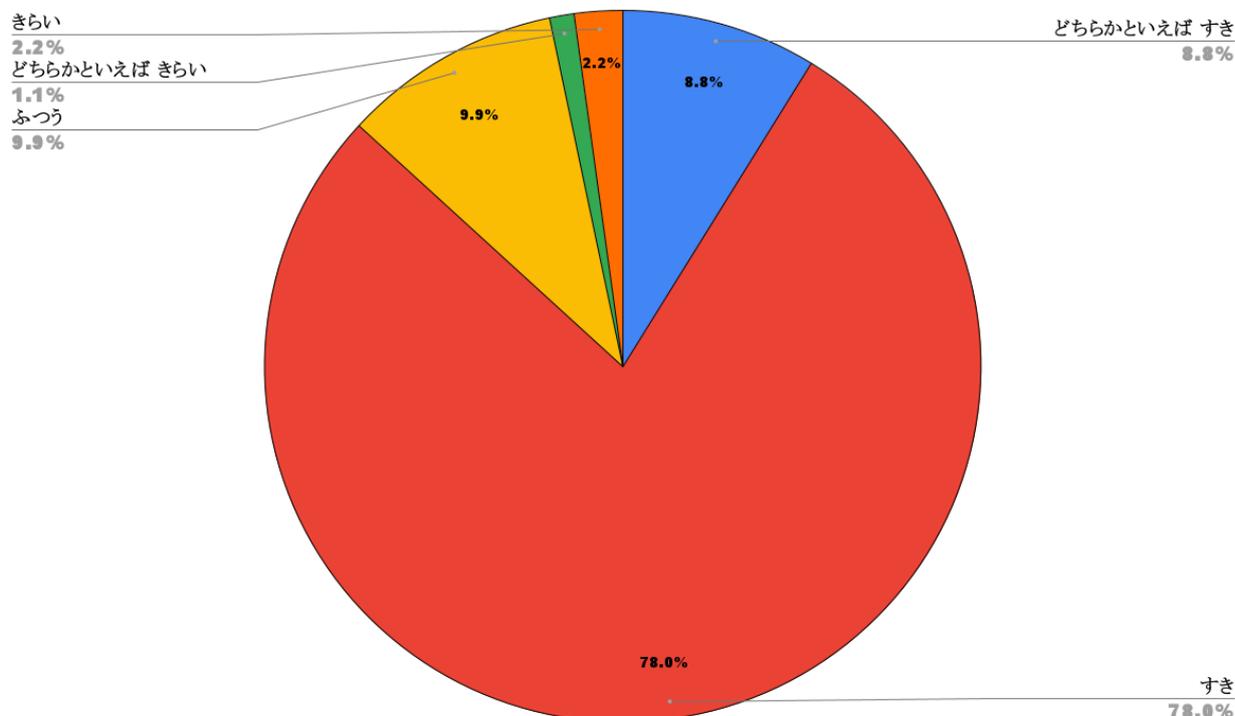
本単元では、千鳥いこい公園での季節の活動に地域の方と出かける。活動の中で、秋を感じられるものを教えてもらったり、安全に活動できるように見守ってもらったりする。校外学習で学んだことを活かして、秋の自然への考えを広げて、思いや願いを実現することができるようにする。

(3) 生活科の内容（5）季節の変化と生活について

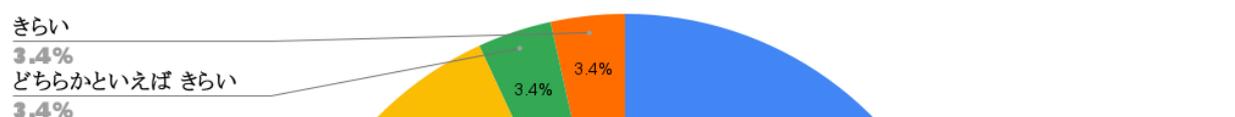
本単元は、生活科の内容（5）を中心に行う。秋の自然にすすんで関わり、そのよさや特徴に気付き、自分の生活に取り入れることの楽しさを味わうことで、生活科の学習だけではなく自分自身の生活をより楽しく充実したものにしようとする姿を期待している。

【あきについてのアンケート】（1年2組 児童31名 9月実施）

あきは すきですか。 1年生



あきは すきですか。



好きな理由・・・涼しいから。

もみじやいちようがあるから。

紅葉がきれいだから。

葉っぱの色がきれいだから。

落ち葉で遊べるから。

紅葉がいっぱいあるから。

ドングリや落ち葉があつてきれいだから。

自然がいっぱいだから。

トンボが好きだから。

秋の食べ物が好きだから。

◎秋にあるもので、知っているものはありますか。

枯葉、ドングリ、マツボックリ、もみじ、柿、栗、きのこ、木の実、(あか) とんぼ、葉っぱの色が赤く変わる、イチョウ、コスモス、梨、赤や黄色やオレンジの葉っぱ、虫

◎秋に楽しみなことはなんですか。

色水遊び、秋探し、栗拾い、栗を食べる、ドングリを食べる、ドングリが落ちること、ドングリ拾い、ドングリの木を探すこと、キャンプ、落ち葉の山に飛び込む、枯葉を掛け合う、遊ぶこと、落ち葉拾い、紅葉狩り、栗がおちる、柿を食べること、お月見、運動会、誕生日、食べること、秋祭り、本門寺公園に行くこと、ドングリ・マツボックリで工作すること、イチョウで押花をすること、ドングリでアクセサリー作り、お芋掘り、モンブランを食べる

「秋は好きですか。」の項目では、約8割の児童が好きと答えた。涼しいからや暑くも寒くもないからというように、気候の変化を理由に挙げる児童が一番多かった。また、食べ物がおいしくなることや落ち葉など自然を理由に挙げている児童もいた。

「秋にあるもので、知っているものはありますか。」の項目では、身近に見ることのできるドングリやマツボックリ、紅葉が挙げられた。さらに、「秋に楽しみなことはなんですか。」の項目では、ドングリ拾いや紅葉を見る、木の実がたくさん拾えるなど、秋ならではの楽しみが多く挙げられた。

本単元を通して、秋の楽しさを味わい、夏から秋、秋から冬へと季節の変化による違いにも興味をもち、それぞれの季節の良さや特徴に気付き、自分で自分自身の生活を楽しく豊かなものにしていこうとする児童を育てていきたい。

6 研究主題に迫るための手だて

低学年分科会で目指す姿

地域のよさやすばらしさに気付き、愛着をもち大切にする子

(1) 地域と連携・協働して思いや願いを実現することができるようにするための手立て

①人や環境との関わりを通して、思いや願いを実現するために考えを広げる機会の設定

読書学習司書の先生に、秋の自然に関する絵本の読み聞かせや本の紹介をしてもらったり、スクールサポート久原の方に年間を通して一緒に行ってもらったりする。秋の自然への考えを広げて、思いや願いを実現することができるようにする。

②地域の自然物の活用を通して、地域への愛着を深める機会の設定

自分の通学路やよく行く公園などで拾ってきた自然物に地名などを使って名付けることで地域への愛着を深めるようにする。

(2) 自分の生活の中から思いや願いをもつことができるようにするための手立て

①児童が生活の中で学習対象に興味・関心をもつことができる「第0次」の設定

- ・木の実や葉など秋の物や秋に関する図鑑や資料などを、単元が始まる前から「うきうきひろば」（生活科コーナー）に置き、自由に見たり触ったりすることができるようにする。「秋の自然を探したい」、「自然の物を使って遊びたい」という思いや願いをもつことができるようにする。
- ・朝読書の時間に、秋の自然に関する絵本の読み聞かせなどをする。興味・関心を広げ、思いや願いをもつことができるようにする。

②学習活動に応じた環境構成の工夫

「うきうき広場」（生活科コーナー）には、ねらいに応じて置く物を追加するなど更新する。次の思いや願いをもつことができるようにする。

③主体的な活動につながる児童の多様な思いや願いを生かした学習活動の工夫

- ・「うきうきマーケット」（材料置き場）に様々な材料を置いておき、思いや願いをもとに主体的に秋の自然に関わり、多様な活動を展開することができるようにする。
- ・年間を通して、校内の生活科広場や学区域にある身近な公園を中心に活動する。日常生活の中で思いや願いをもち、実現できるようにする。

(3) 自分の生活を豊かにすることができるようにするための手立て

①対象に何度も関わり、試行錯誤して「やりタイ」「はっケン」を繰り返す学習活動の工夫

活動の時間を十分にとり、秋の自然と繰り返し関わることで、特徴に気付き、自分の生活に生かしたりすることができるようにする。

②自分自身の成長に気付き、次の活動の意欲へとつながる振り返りの工夫

活動や体験を振り返り、気付いたことをもとに振り返りを書く。積み重ねることで、自分の成長に気付いたり、次の活動や自分の生活に生かそうとしたりすることができるようにする。

(4) 気付いたことを交流し、学びを深めることができるようにするための手立て

①交流しながら思考を整理することで、新たな気付きが生まれたり認識を深めたりする場の設定

- ・気付いたことをパネルやホワイトボード、ムーブノート（タブレット端末）で共有する。思考を整理しながら交流し、認識を深めることができるようにする。
- ・ムーブノートなどで友達のはっケンを見られるようにしたり、教師が児童の活動の姿等を写真や動画で撮影して活用したりする。新たな気付きが生まれたり、認識を深めたりすることができるようにする。

7 おおたの未来づくり科との関連

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
創造的な資質・能力の素地の育成	<p>①問題の発見・解決に必要な情報を収集・活用するための知識及び技能を身に付けている。</p> <p>②分かったことや考えたことを相手に分かりやすく伝えるための言語や情報技術を習得している。</p>	<p>①目標と現状、予測と結果、異なる意見などを比較し、問題を発見する力を身に付けている。</p> <p>②既習事項や収集した情報、多様な考えを整理して問題の解決策を考える力を身に付けている。</p> <p>③問題を発見し、解決方法を考え、結果を予測しながら試行錯誤して解決方法の実行を繰り返し、問題解決を図る力を身に付けている。</p>	<p>①実社会で活躍する人などとの対話を大切にし、問題の発見・解決に資する情報収集に進んで関わろうとする態度を身に付けている。</p> <p>②問題の発見や解決に向かって、自分や他者のよさを生かして協働しながら、主体的に取り組もうとする態度を身に付けている。</p> <p>③学習を振り返って学習状況を把握し、次の問題発見・解決につなげていこうとする態度を養おうとしている。</p>
低学年として 目指す姿	<p>活動や体験の過程において、自分や身近な人々、社会や自然の特徴やよさ、かかわりに気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。</p>	<p>身近な人々、社会や自然を自分との関わりでとらえ、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにしている。</p>	<p>身近な人々、社会や自然に働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしたりしようとしている。</p>
本単元において 目指す姿	<p>身近な秋の自然と関わる活動を通して、見付けたことを表現したり生かして遊んだりし、秋の自然のよさや特徴に気付いている。</p> <p>発見カードに書いて、分かりやすく伝えている。</p>	<p>秋の自然を観察して、見付けたことを自分なりの方法で表したり、秋の自然の特徴を生かして、遊んだり、関わったりしている。</p> <p>秋の自然の特徴、季節の変化による違いについて考えている。</p>	<p>身近な秋の自然、季節の変化による生活の違いに関心をもってはたらきかけようとしたり、親しみや愛着をもったりしている。</p> <p>見付けたことをすすんで表現しようとしたり、生かして遊ぼうとしたりしている。</p> <p>見付けたことを自分自身の生活に生かそうとしている。</p>

※1 ページ「単元の評価規準」とも関連

他教科で学習したことを生活科の活動や体験の中で生かしたり、生活科での活動や体験から他教科の学習につなげたりすることができるようにカリキュラムを工夫する。

教科	単元名	「あきを たのしもう」との関連	「おおた未来づくり」との関連
国語	「よくきいて、はなそう」	秋の植物を使った遊び方について、伝え合ったり、質問したりすることができる。	相手の伝えたいことを聞き洩らさないようにし、情報収集ができるようにする。
国語	「わけをはなそう」	季節の変化について落ちているものから考えることができる。	収集した情報を整理してまとめられるようにする。
国語	「好きなこと、なあに」	自分のお気に入りの秋の植物やおもちゃとその理由を友達と伝え合い、互いに質問することができる。	相手の伝えたいことを聞き洩らさないようにし、情報収集ができるようにする。
国語	「こんなことがあったよ」	秋の植物で見付けたものや思ったことなどを、丁寧な言葉で伝えることができる。	収集した情報を整理してまとめられるようにする。
国語	「知らせたいな、見せたいな」	知らせたい秋のものを詳しく観察して、見付けたことを短い言葉で書くことができる。	収集した情報を整理してまとめられるようにする。
国語	「おおきくなった」	秋の植物を観察し、発見カードに書くことができる。	収集した情報を整理してまとめられるようにする。
算数	「わかりやすくせいりしよう」	ドングリやマツボックリの個数を種類ごとに分類整理し、簡単な絵や図を用いて表したり、とらえたり比べたりすることができる。	収集した情報を整理してまとめられるようにする。
道徳	「あさがお」	どんな小さな動植物（秋の植物）でも生命があることを理解し、優しい気持ちで接することができる。	自然に親しみ大切にすることで、よりよい地域社会を作ろうとする態度を育てる。
音楽	「はる なつ あき ふゆ」	情景を思い浮かべる学習に興味をもち、すすんで取り組んでいる。	実生活での自分の身近な体験と重ね合わせて生活を豊かにし、愛着をもてるようにする。
図画 工作	「ならべてみつけて」	ドングリやマツボックリなどを並べたり組み合わせたりする活動を通して、形や色、並べ方に気付くことができる。	形や色、並べ方などの造形的な特徴を基に試行錯誤して創出し、自分のイメージをもてるようにする。
図画 工作	「こすりだしからうまれたよ」	こすりだしをする活動を通して、表したいものを見つけて、どのように表すか考えることができる。	材料や場所、空間などの特徴を基に思い付き、どのようにするかアイデアやデザインを考えられるようにする。

9 指導計画(12時間扱い)「あきを たのしもう」

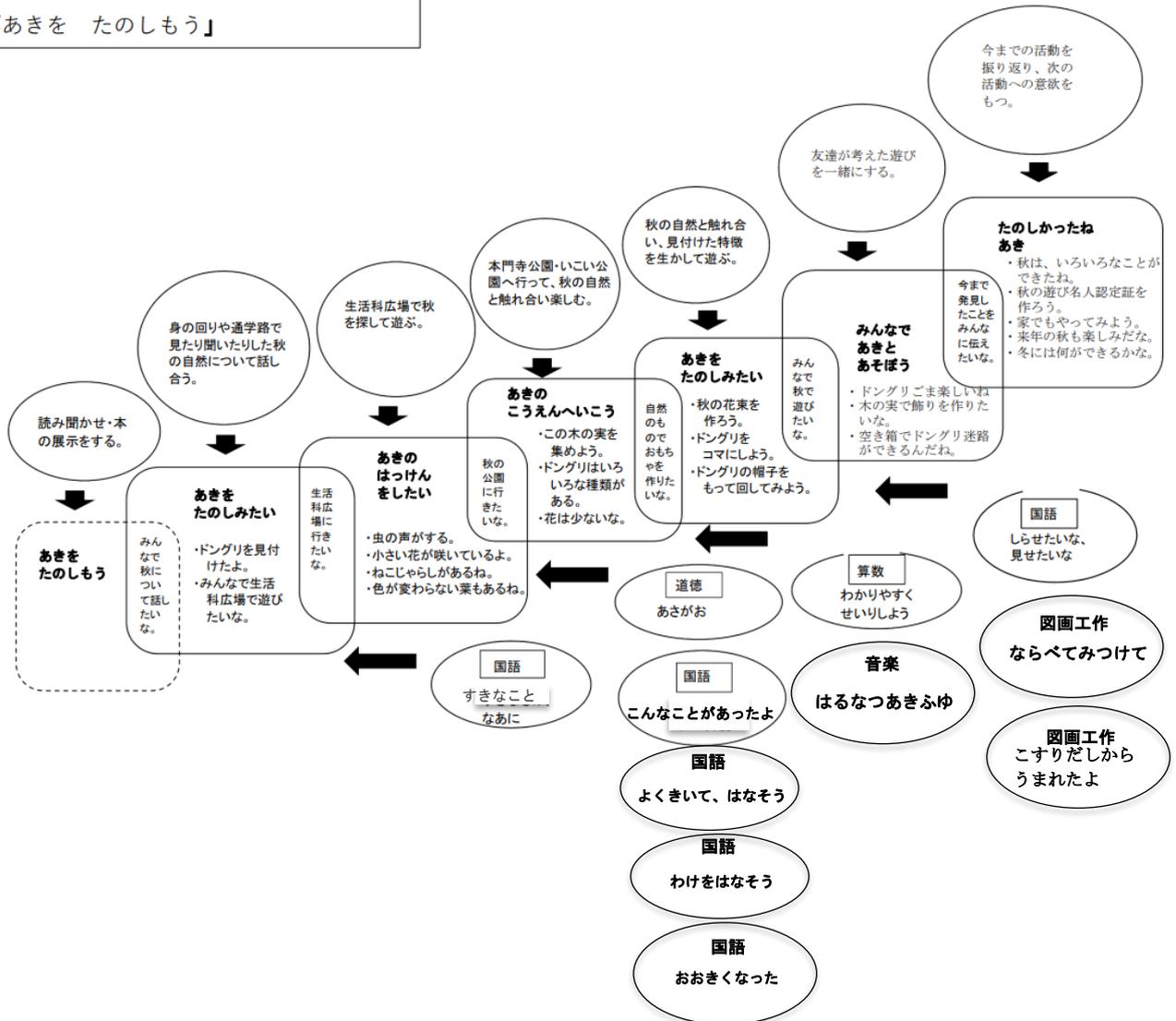
次	時	○主な学習活動 ・予想される児童の姿	◇手だて □支援 ☆評価 (評価方法) ▽教科横断的な学習	おおた未来 づくり科と の関連		
				知	思	学
第0次	0	<ul style="list-style-type: none"> ・公園でドングリを拾ったよ。 ・落ち葉が落ちていたよ。 ・栗を拾ったよ。 	◇(2) ①朝読書の際に、秋の自然に関する絵本を読み聞かせたり、図鑑や資料などを置いたりすることで、秋の自然についての興味・関心をもつことができるようにする。			①
第1次	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">あきをたのしみたい</div> <ul style="list-style-type: none"> ○身の回りや通学路で見聞きした秋の自然について話し合い、これからの活動について考えたり、活動したりする。 ・ドングリを見つけたよ。 ・みんなと生活科広場で遊びたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇(2) ②児童が集めてきた木の実や葉など秋の自然の物を置いておく。 ◇(1) ②児童が集めてきた木の実や葉など秋の自然物に地名などを使って名付け、地域への愛着を深めるようにする。 ◇(2) ②うきうき広場を見て自分が見つけた秋のことを想起できるようにする。 ☆主① (行動・発言) ▽国語「すきなこと、なあに」	①		①
	2 3 4	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">あきのはっけんをしたい</div> <ul style="list-style-type: none"> ○地域(学校含む)で秋を探して遊ぶ。 ・虫の声がする。 ・小さい花が咲いているよ。 ・ねこじゃらしがあるね。 ・色が変わらない葉もあるね。 ・緑コースでドングリを見つけたよ。 ・いこいドングリと名付けたよ。 ・マツボックリを見つけたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> □春にも活動した生活科広場・校庭様々なもの物を見付け、秋の自然の特徴や季節の変化を感じることができるようになる。 ☆知・技①② 思・判・表①② 主① (行動・発言) ▽道徳「あさがお」 ▽国語「こんなことがあったよ」 ▽国語「よくきいて、はなそう」 ▽国語「わけをはなそう」 ▽国語「おおきくなった」		① ②	②
	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">あきのこうえんへ いこう</div> <ul style="list-style-type: none"> ○本門寺公園・いこい公園へ行って、秋の自然と触れ合い楽しむ。 ・この木の実を集めよう。 ・帽子を被っている実があるよ。 ・ドングリはいろいろな種類がある。 ・イチョウの葉が黄色いね。 ・花は少ないな。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇(1) ①地域の身近な公園で様々な秋のものを探することで、季節の変化を感じることができるようになる。 ☆知・技② 思・判・表② 主① (行動・発言・付箋・はっけんカード) ▽算数「わかりやすくせいりしよう」 ▽音楽「はる なつ あき ふゆ」			

<p>第2次</p> <p>6 本時 ・ 7 ・ 8 ・ 9</p>	<p style="text-align: center;">あきをたのしみたい</p> <p>○秋の自然と触れ合い、見付けた特徴を生かして遊ぶ。 ・ドングリの帽子をもって回してみよう。 ・秋の花束を作ろう。 ・ドングリをコマにしよう。</p>	<p>◇(1) ②地名などを使って名付けられた自然物を用いて、地域への愛着を深めるようにする。 ◇(2) ③秋の自然の物などを使って、自分で遊ぶ物や遊び方を考えたり選んだりすることで、自然に主体的に関わることができるようにする。 ◇(3) ①秋の自然と繰り返し関わることで、特徴に気付き、自分の生活に生かしたりすることができるようにする。 ◇(4) ①ムーブノート等を使って、気付いたことを交流し、学びを深めることができるようにする。 ☆知・技②思・判・表②主①(行動・発言・付箋・振り返り) ▽国語「しらせたいな、見せたいな」 ▽図画工作「ならべてみつけて」 ▽図画工作「こすりだしからうまれたよ」</p>	<p>②</p>	<p>③</p>	<p>③</p>
<p>10 ・ 11</p>	<p style="text-align: center;">みんなで あきとあそぼう</p> <p>○友達が考えた遊びを一緒にする。 ・ドングリごま楽しいね ・木の実で飾りを作りたいな。 ・空き箱でドングリ迷路ができるんだね。 ・発見したことを「はっケンカード」に書いておこう。</p>	<p>◇(2) ③うきうきマーケットから好きな材料を選ぶことで、自分がやりたい遊びを考えることができるようにする。 ◇(2) ①久が原図書館の団体貸出で借りた、秋の自然に関する絵本や図鑑を見ることが、イメージを広げたり、やりたいことを考えるヒントにしたりするようにする。 ☆主①知・技②③(行動・発言・振り返り)</p>	<p>②</p>	<p>③</p>	
<p>第3次</p> <p>12</p>	<p style="text-align: center;">たのしかったね あき</p> <p>○今までの活動を振り返り、次の活動への意欲をもつ。 ・秋は、いろいろなことができたね。 ・秋の遊び名人認定証を作ろう。 ・家でもやってみよう。 ・来年の秋も楽しみだな。 ・冬には何ができるかな。 ・久が原にはたくさんの秋があったね。</p>	<p>◇(3) ②振り返りや認定証を書くことで自分自身の成長に気付くことができるようにする。 ☆知・技④思・判・表③主③(振り返り・名人認定証)</p>			<p>②</p>

10 学習スパイラル

第1学年 内容(5)

「あきを たのしもう」



11 本時の指導(6/12時間)

(1) 本時の目標

見付けた秋の自然を生かして遊んだり、関わったりすることができるようにする。

(2) 本時の指導計画

	○学習活動 ・思いや願い、気付き	□指導上の留意点 ◇手だて ☆評価
導入 5分	○前時を振り返り、今日やりたいことを確認する。 T:今日は何をしたいですか。 C1: ドングリの帽子をもって回したいです。 C2: 秋の花束を作りたいです。 C3: ドングリをコマにしたいです。	◇今までの活動の様子を思い出せるように、これまでの写真を掲示しておく。 ◇前時の終わりに考えたやりたいことを思い出して、自分で決められるように振り返りカードを見て良いことを伝える。
展開 25分	<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center; margin: 0 auto; width: fit-content;"> <p>あきを たのしみたい</p> </div> <p>○秋の自然の物と関わりながら、自分がしたい遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ドングリゴマを作ろう。 ・ マツボックリでリースを作ろう。 ・ ねこじゃらし(エノコログサ)の先が茶色くなっている。 ・ このお花をリースに付けたいな。 ・ 花束を作って教室に飾ろう。 ・ 木の実を並べてみよう。 ・ マツボックリと一緒に花束を飾ろう。 <p>7分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空き容器に入れてマラカスにしよう。 ・ 枯葉を踏みみたいな。 ・ 葉っぱシャワーをしたい。 <p>○発見したことを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 細長いドングリがよく回りました。 ・ 秋は茶色い花束ができました。 ・ たくさんドングリゴマを作れました。 	<p>□興味・関心をもつことができるようにするために絵本や本を展示しておく。</p> <p>□自分のやりたい活動ができるように、家にあった空き容器を活用しても良いことを伝える。</p> <p>◇自分でやりたい活動を考えられるように、うきうきマーケットに、透明カップ、紙コップ、ペットボトル、紙皿、リボンなど様々な材料を用意しておく。</p> <p>□見付けた秋の物の特徴を生かして、生活が楽しくなるようにすることができるようにする。</p> <p>□友達の発見したものを見ても良いことを伝える。</p> <p>☆見付けた秋の自然を生かして遊んだり、関わったりしている。(思・判・表)</p> <p>□写真を見ながら共有ができるよう、活動の様子を写真に撮っておく。</p>
まとめ 8分	○本時の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 細長いドングリはたくさん回った。 ・ 秋は葉っぱが茶色くなっていることに気が付いた。 ・ 家の近くの公園でも秋を探してみようと思う。 <p>○次の時間にやりたいことを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ また公園に行って他の花とか草も見付けたい。 ・ 生活科広場でコオロギを捕まえたい。 ・ どこで取れたコマが一番回るのかやってみよう。 	◇活動を振り返ることを通して、気付いたことを再認識したり、自分自身の生活や次の活動の意欲へとつなげたりすることができるようにする。 <p>□気付いたことを共有して考えを深めたり、次の活動の意欲と見通し(やりたい)をもったりすることができるように声をかける。</p>

12 板書計画

10/9



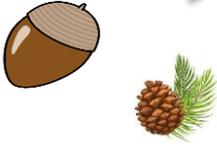
- ・ ドングリをもってまわしたい。
- ・ あきのはなたばをつくりたい。
- ・ ドングリをコマにしたい。

あきを たのしみたい



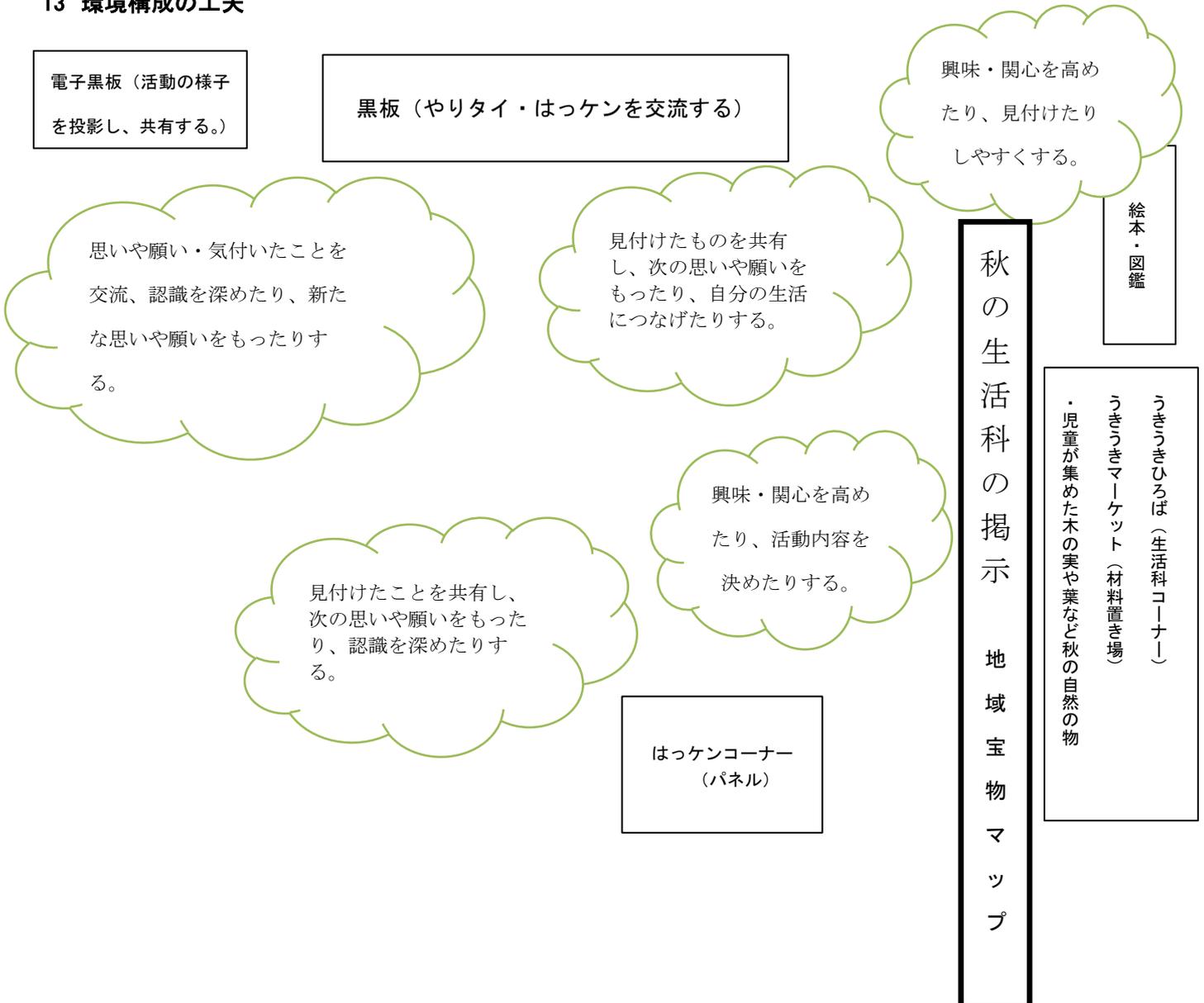
- ・ ほそながいドングリがよくまわった。
- ・ あきは ちゃいろいはなたばができた。
- ・ たくさんドングリゴマをつくれた。

はっケンカード



ドングリゴマ
マツボックリ
リース

13 環境構成の工夫



14 協議会記録

(1) 授業者自評

- ・子どもたちは秋マップに意欲的に取り組んでいた。
- ・子どもたちは、「色々な場所で探したい」という思いをもち、通学路や生活科広場、色々な公園で秋のものを収集してきて学習をすすめてきた。
- ・導入時の「やりタイ」を聞き出す際に、こちらが意図するものが出てくるのを待っていたため、時間が足りなくなってしまった。その結果、活動時間が短くなってしまった。

(2) グループ協議

手立てに関して

- ・フロアや教室内の環境構成が良かった。本や道具を生かして活動していた。
- ・気付いたことを共有するために、ホワイトボードや付箋を準備しておいた方が良かった。
- ・工作の方に夢中になってしまう児童もいたため、秋の自然のよさを生かしたおもちゃづくりをするという意識を導入部分で共有すると良かった。

その他

- ・子どもたちの「やりタイ」を引き出す環境設定ができていた。
- ・導入部分を短くし、児童の活動の時間を確保した方が良かった。
- ・共有発表の際、タブレットで動画撮影した者を流すという案は良かったが、有線でつないだ方が途切れなくて良かった。

15 指導・講評 新宿区立落合第三小学校校長 清水 仁 先生

(1) 指導案の内容について

- ・1単元を1内容で構成していて良い。
 - (3) 地域と生活 (6) 自然やものを使った遊び (7) 動植物の飼育・栽培
 - (8) 生活や出来事との伝え合い と合わせて行う実践もあるが、単独で行うことにも意味がある。
- ・年間指導計画の見直しや教材の見直しをして、気候変動への対応できるようにすると良い。
- ・主題に迫るための手立てそれぞれに、具体的な手立てが示されていて良い。
- ・読み聞かせを取り入れるとより効果的になる。
- ・「やりタイ」ことに取り組み、今日の活動を振り返り、次時の活動への意欲につなげるよう、見通しをもつことができるようにして良い。

(2) 本時について

- ・導入はさらっと確認し、すぐに活動に入った方がと良い。
- ・本時の見通しがもてるように、流れや時間的な見通しを提示すると良い。また、学習全体の見通しがもてるよう、「あきであそびたいの学習は、全部で4時間あるよ。」と言っておくことで子どもなりに見通しをもつようになる。
- ・振り返り活動では、今日やったことの振り返りと合わせて、次時への意欲付けと目的意識をもたせる。

- ・児童の思いを想定し、対応できるように場の設定や道具を考えておくことで気付きの質を高めることができる。

なぜ、今、探求が必要なのか

- ・「まちの担い手」になれるよう、児童が地域、社会に貢献できる人間に育てていかなければならない。
- ・支援されるだけであった学校と子どもが、地域や保護者、関係諸機関と相互に高め合う関係となっていくことが大事である。
- ・遊び→生活科→総合的な学習→総合的な探究

幼児教育は「遊び」である。最も楽しい探究、体験にかける時間が潤沢にある。

→生活科「思いや願いを実現する」「楽しくなければ生活科ではない」

→総合的な学習「問題解決が連続的に発展していく」「本気で真剣にならなければ総合学習ではない」

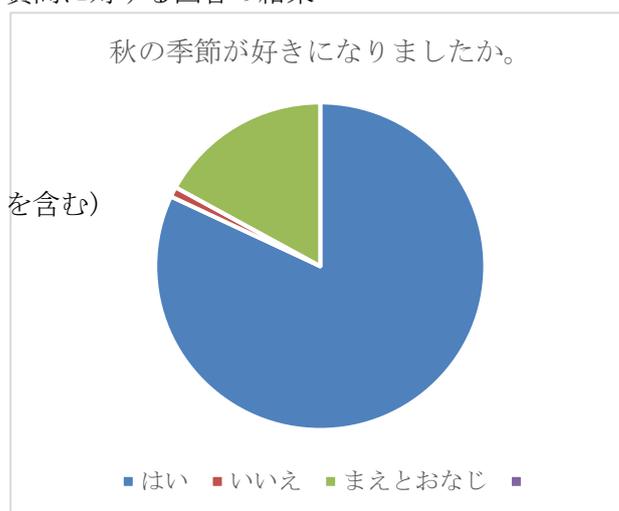
→高等学校においても探究は続いていく。

16 考察

(1) 事後アンケートから

①学習を終えて「秋の季節が好きになりましたか。」の質問に対する回答の結果

はい	82パーセント
いいえ	1パーセント
まあとおなじ	17パーセント
	(前から好きだった、を含む)



②「楽しかった学習や発見したことは、なんですか。」の質問に対する主な回答

- ・ドングリでおもちゃを作るととても楽しかった。
- ・落ち葉の色が変わったことに気付いた。きれいな落ち葉を拾うようになった。
- ・前は気にしていなかったけれど、今は、秋はきれいだなと思う。
- ・秋の季節が楽しかった。
- ・夏と秋の違いがわかった。
- ・冬の季節が楽しみになった。
- ・来年の秋が楽しみになった。

(2) 成果と課題

手だて (1) 地域と連携・協働して思いや願いを実現することができるようにするための手立て

成果

考えを広げる機会の設定を試みとして、生活科広場での継続的な活動や、地域の公園に繰り返し行って活動することで、身近な自然に興味・関心をもつことができていた。また、同じ場所で活動することで、四季の変化にも気付きやすかった。

課題

地域の人への愛着をより深めるよう、計画的に春からゲストティーチャーとかかわる機会を考えていく必要がある。

手だて (2) 自分の生活の中から思いや願いをもつことができるようにするための手立て

成果

環境構成の工夫として「うきうき広場」(生活科コーナー)を設け、様々な材料を置いておくことで、児童の多様な思いや願いを生かした学習活動ができた。

課題

児童の「やりタイ(思いや願い)」は毎時間変化していくので、それに対応できるように環境構成を想定していく必要がある。

手だて (3) 自分の生活を豊かにすることができるようにするための手立て

成果

活動や体験を振り返り、気付いたことをもとに振り返りカードを書くことで、この後の自分の生活に生かそうとする気持ちももてた。

課題

「やりタイ」「はっケン」を繰り返す学習活動に合わせて、次の活動への意欲につながる効果的な振り返りの方法を、さらに考えていく必要がある。

手だて (4) 気付いたことを交流し、学びを深めることができるようにするための手立て

成果

交流しながら思考を整理し、新たな気付きが生まれたり認識を深めたりする場を設けていて良い。はっケンカードや付箋を用いたことで「はっケン」を表現したり、交流したりすることで、新たな気付きが生まれたり認識を深めたりすることができた。

課題

教師が児童の活動の姿等を写真や動画で撮影して活用するだけでなく、児童がオクリンクプラスなどを活用して友達のはっケンを見られるようにすると、振り返りの幅が広がる。